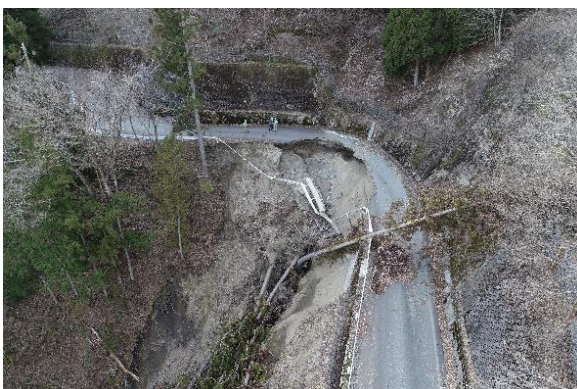


高山市では令和2年、3年と、2年続けて豪雨による被害を受け、令和2年度は185か所、令和3年度は42か所で災害が発生しました。令和2年から3年にかけて、公共土木施設災害復旧工事を148件発注し、令和5年度に全て完成しました。

令和2年7月豪雨災害

令和2年7月3日から8日かけて日本付近に停滞した梅雨前線の影響で、暖かく非常に湿った空気が継続して流れ込みました。そのため、断続的に雨が降り続き、市内の連続雨量は7月3日から15日までに938.5mmに達し、各地で大きな爪痕を残しました。気象庁は全国各地で甚大な被害が発生したことを踏まえ、今回の豪雨を『令和2年7月豪雨』と定めました。



令和2年7月8日被災
『市道塩屋見座線』
道路法面が豪雨により崩壊
(高山市大島町地内)



< 着手前 >

< 完成 >



令和4年3月25日完成
復旧延長L=34m
路側工（大型ブロック）A=188㎡
防護柵工（Gr-C-2B）L=26.1m
舗装工（5cm）A=252㎡

令和3年5・7・8月豪雨災害

令和3年は、5月、7月、8月と年に3回の豪雨に見舞われ、市内の道路施設や河川等、42個所の災害が発生しました。

5月の豪雨災害では、高山市上宝町葛山地内において、高原川に架かる「苧生茂橋」橋梁144m、5径間(PC単純ポストテンション箱桁橋)の橋りょうが、河川の増水により橋脚1基が傾き、2径間分(約60m)が落橋しました。



令和3年5月21日被災
『苧生茂橋』
高原川の増水により2径間が落橋
(高山市上宝町葛山地内)

< 完成 >



令和5年5月26日完成
復旧延長L=57.6m
< 上部工 >
橋 長：L=57.63m
有効幅員：W=2.1m
橋梁形式：鋼橋（2径間連続合成版桁）



< 下部工 >
橋 脚：P4橋脚（RC橋脚）N=1基

< 維持課土木系技術職員の主な業務 >

○市道約1863km、普通河川の維持管理に向けて

- ・市道、普通河川パトロールの実施
- ・市内15トンネルの点検、修繕工事の発注
- ・道路施設、普通河川の維持修繕工事の発注

○災害復旧事業に向けて

- ・国の災害査定に向けた、査定設計書の作成
- ・公共土木施設災害復旧工事の発注

○市民の安全・安心なまちづくりに向けて

- ・急傾斜地崩壊対策事業
- ・道路施設バリアフリー整備事業
- ・消融雪側溝整備事業